

**サンプラザ中野教諭**  
**株はロックだ!という話がロックだ。**



24日  
12:30 ~ ロックの授業「株とロックと本マグロト太郎」  
17:00 ~ 体育館ライブ サンプラザ中野

撮影/北野謙

84年に爆風スランプのボーカリストとしてデビュー以来、23年に渡ってシーン駆け抜けてきたサンプラザ中野教諭。この7月に、初のソロアルバムとなる「3rd LOVE/The Best Ballads」をリリース。ロックの学園で、「サンプラザ中野BAND」として繰り広げるパワフルな体育館ライブに期待が高まる。

そんな中野教諭の持論のひとつが、株はロックであるという考え方。株をテーマにした連載や著作を多数抱える教諭は、ライブに加えてロックの授業「経済/株とロックと本マグロト太郎」の講義を行う予定。果たして、そのココロは……?

「大昔の音楽って、大金持ちがパト

ンになって、音楽家を召し抱えて自分だけのために演奏させるものとしたよね。でも、現代のロックはCDや音楽配信によってコピーされ、万人のものに届けられる。株もまた、株式会社が生まれたおかげで万人が持てるようになったんです。そして、ロックも会社も、万人に受け入れられなかったら、市場から去らなければならない。授業では、そんな株とロックの共通性についてしゃべり倒そうと思っています」

加えて、株だけでなく、「健康のためなら死ぬ(笑)」というほど様々な健康法を研究し、自ら実践している中野教諭。一方で、ロックとはセックス・ドラッグ・ロックンロールであって、株や経済の話をして、健康を追求するのはロックではないという風潮も世の中には存在している。でも、それはロックの進展を認めていないということでは?と中野教諭は言う。

「ロックとは、常に時代の先端を行くものだと思うんです。いまは、世界で一番ロックを体現しているミック・ジャガーがタノキも吸わず、ジョギングしている時代。そもそも、『株はロックだ』という話自体、聞いたことないでしょ? (笑) 健康も同じこと。僕は、それがロックだと思うからこそやっているんです」

古い常識にとらわれず、常に現在進行形であり続ける、中野教諭の熱きロック魂。体育館ライブとロックの授業で、その真髄を体感しよう!

**加藤ひさし(ザ・コレクターズ)教諭**  
**盗んだバイクでどこまで行けたのか?!**



映画「スクール・オブ・ロック」の公式サイトで以前行われた、「先生になってもいいミュージシャンは?」というアンケートで堂々の一位に輝いた、ザ・コ

23日 12:30 ~ ロックの授業「ロック大日本史」  
ゲスト:スネオヘアー  
15:30 ~ ロックの授業「ロックの詩(うた)」  
ゲスト:松本素生(GOING UNDER GROUND)

レクターズの加藤ひさし教諭。今回、ロックの学園で、『歴史/ロック大日本史』と『国語/ロックの詩(うた)』の2コマの授業で教壇に立つことに。87年のデビュー以来、20年に渡って日本のロックシーンを駆け抜けてきた加藤教諭の授業内容とは?

『ロック大日本史』は、日本から見た世界のロックとの交流史です。西欧ロックの黒船来航から、憧れのニセ外人になりきるロック鹿鳴館時代へ。そしてイカ天革命を経て、青春バンクの若者たちが起こすムーブメントによって一気に鎖国時代が到来。その後、レジスタンス運動が起き……というように流れてですね。人類の進化の令やダーウィンの進化論なども交えつつ(笑)、その場のノリで解説していきます」

では、『ロックの詩(うた)』は? 「まず、ロック寄りの立場と視点から、歌謡とロックの歌詞の対比させていきます。フォークの歌詞の貧乏臭さと、現

代の青春バンクで歌われている貧乏っぽさの共通点とは何か、とか。あとは、僕はもともと理数系なので、歌詞に対して理論物理学的なアプローチもしてみたいですね。たとえば尾崎豊は盗んだバイクでどこまで行けたのか(笑)とか、日本のロックの歌詞における英語含有率の変遷とか……」

『ロック大日本史』の日直(ゲスト)は、加藤教諭がいいボケをかましてくれそう」というスネオヘアー。『ロックの詩』の日直は、「僕と同じ埼玉県人で、ツッコミが上手」というGOING UNDER GROUNDの松本素生が担当。さらに、どちらの授業も、筋道産教頭がゲストとして参加する。もちろん、入場も受講も無料だ。

「こんな授業はやったことがなかったから、日直や教頭先生に手伝ってほしいつつ、アドリブあり、笑いありで面白く、場を盛り上げていきたいです。やり過ぎて、20年間積み上げてきたものが台無しにならない程度にね(笑)」

**BONNIE PINK 教諭**  
**アティテュードは、あくまでもロック!**



9月にスタートした全国ツアーのファイナルを、初の武道館公演で成功のうちに終えたBONNIE PINK教諭。その余韻も醒めやらぬ10月30日、都内某所で、筋道産教頭との緊急打ち合わせが行われた。今回、BONNIE 教諭はアコースティック

23日 14:00 ~  
体育館ライブ BONNIE PINK

クセツでの体育館ライブに登場することが決定。さらに、「せっかくだから衣装はアレがいいんじゃない?」「学生時代の思い出の曲を演奏するのめアリかも」「二人で一纏めにステージに立つのはどう?」……と、盛り上がりまくる教頭&教諭。詳細をこの誌面で発表できないのが非常に残念だが、絶対に見逃さないライブになることは間違いないさそうだ。

そして、さらなるサプライズが、ゲストベーシストとして、ウルフルズのジョン・B・チョッパーの参加が決定。BONNIE 教諭と初共演を果たすことになったのだ。「ジョンBさんとは以前から知り合いだったんですが、一緒にステージに立つのは初めて。キャラクター的にもロックの学園向きの方だと思うし、すごく楽しみです。あとは、キーボードがSOUL FLOWER UNIONの奥野真哉さんと、ギターが八橋義幸さん、パーカッションがもう何年もツアーと一緒に回っているNanaN.ちゃん。この5人編成のアコースティックセットですが、アティテュードはロックで! 私を含めたメンバー全員、魂は16歳未満の少女のままの人は、自分たちが思いきり楽しんでほしいので、みんなも一緒に楽しんでほしいですね」

そう話しながら、「体育館でライブするなんて機会、めったにないですね。キャンパスライブを満喫しちゃうよ」と楽しそうに笑うBONNIE 教諭。

ちなみに、BONNIE 教諭にとっても、ロックの学園的な思い出といえば、「通っていた中学校の下校の音楽が『ヘビー・ジュード』で、放送部の男子の子がある日マイケル・ジャクソンをかけたから先生が猛烈に怒ったこと(笑)」なのだそうだ。

**スネオヘアー教諭、  
斉藤和義教諭、  
平川地一丁目教諭も、  
この3連休は  
ロックに休日出動!**

さて、残る3組の教諭陣は? まずはスネオヘアー教諭。11/23(金・祝)12:30~から加藤ひさし教諭のロックの授業「ロック大日本史」に日直として参加。その後、17:00~で体育館ライブ。こちらには授業のお返し(?)に、加藤教諭が飛び入りですべてに表明済み。国道17号線つながりコンビが、息の合ったところを見せれます。でもって、平川地一丁目教諭は11/24(土)14:00~から体育館ライブ。そして、平川地の初期プロデューサーでもある斉藤和義教諭が11/25(日)15:00~、ロックの学園の大トリを飾る最後の体育館ライブにいき登場! ココロはいつもKeep on Rockin'な教諭陣の録音に、3連休という文字はないのでした。

**増子直純(怒髪天)教諭**  
**自分が好きな石ころを磨き続ける!**



25日 12:00 ~ 体育館ライブ 怒髪天  
13:30 ~ ロックの授業「ロックであること」

撮影/横山新一

「今回の体育館ライブは、廃校が廃校じゃなくなるくらい盛り上げる! でも、以前ある学園祭に呼ばれて体育館でライブをやったら、あんまり盛り上がり過ぎて床がヘコンちゃって、次の年からはもうロックバンドは呼ばなくなっちゃいよ」と、ワイルドなエピソードを開陳する怒髪天の増子直純教諭。実は過去に専門学校で講師を務めた経験があり、筋内教頭をして「今回の教諭陣の中でいちばん先生っぽい」と言わしめた。ロックな筋の通し方に徹底的にこだわり続ける生粋のバンドマンだ。

そして、今回は怒髪天での体育館ライブ

に加えて、ロックの授業で久々に教鞭をとる。お題は『倫理社会/ロックであること』。ロックと非ロックの基準について熱く語る予定だという。「古今東西いろいろなロックバンドがあるけど、自分の曲の歌詞にも書いた通り、『ロックでいい奴アロックでナ!』(編注:このフレーズは「SWITCH」誌上の筋内教頭との対談でロックの学園の校則・第4訓に決定した)。学校や職業を選ぶとき、ドキドキしながらあえてヤル!方の道へと向かって行くのがロック。そして、『あ!パカは何やってんだ?』と笑われながらも、何十年でも自分が好きな石ころを磨き続けるのがロック。まわりが何と言おうが、自分の言葉でしゃべるのは自分しかいない。いくら誰かのマネをしてカッコ良くなくなったって、モノマネ大会

で優勝するのと同じで、オリジナルなのは何も生まれない。自分が心から信じていることに対する、メーターの振り切れ具合こそが本当のロックなんだよ。そんな話をしたいね」

住民税の仕組みから冤罪事件まで、怒れるロック魂は世相をも縦横無尽に斬りまくる。だが、矛盾ばかりの世の中だからこそ、それを笑い飛ばすためにもロックが必要だ、とも。「せっかくみなさん足を運んでくれるんだから、教室ではぜひ楽しんでもらいたいね。それから、質問もぜひ! ふだん言えないようなこと、バンバン言っちゃおう(笑)」

**松本素生(GOING UNDER GROUND)教諭**  
**来た人だけがわかる。人と同じはクソだ!**



23日  
11:00 ~ 体育館ライブ GOING UNDER GROUND  
15:30 ~ ロックの授業「ロックの詩(うた)」  
講師:加藤ひさし(ザ・コレクターズ)

「三浦にはいつか住みたいですねえ……。三崎港のあたりなんて、『三丁目の夕日』みたいな昭和の臭いがプンプンして、落ち着くんですよ」

そう語るのには、『TWISTER』のPV撮影で三浦で行ったGOING UNDER GROUNDの松本素生教諭。体育館ライブの初日トップバッターとなるGOINGは、ア

ルバム「おやすみモンスター」をリリースしたばかり。「ちょうどいま、バンドを始めた17歳の感覚でロックをやっているんです」という。

「だから、ロックの学園に誘ってもらえて良かった。前に筋内さんと話したときに、校訓を『人と同じはクソだ!』にしました(編注:「SWITCH」の対談「ロックの学園」で校則の第5訓に決定)。だから、ライブも好き勝手にやらせてもらえれば、後で「行けば良かった!」と羨ましがられるような、来た人しかわからないものにしたいですね」

さらに、加藤ひさし教諭のロックの授業「ロックの詩」に、日直の生徒役として松本教諭が参加予定だ。

「加藤選手の出身が熊谷で、僕らが桶川という、地元埼玉の高崎線つながり。もう、加藤選手とのセッションですよ。若い人が聞いて面白いなと思えるものにできたらいなと思ってます」

当日は「〇〇を着て、××で登場する」と力強く宣言した松本教諭。校訓を体現したGOINGのロックな勇姿を目撃する瞬間も、もう目の前だ。

**11月23日(金・祝)~25日(日)**  
三崎ロック学園(旧三崎高校)  
[www.rocknogakuen.jp](http://www.rocknogakuen.jp)



**入場料:0円!**  
**\*体育館ライブのみ有料!**

全席指定・各公演 ¥2,500  
23日通し券 ¥6,900 24日・25日通し券 ¥4,500・消費税込  
ローソン店頭Loppiにて発売中! (Lコード:38181)  
ローソネット 0571-084-003 (Lコード:38181)

23日 11:00 ~ GOING UNDER GROUND / 14:00 ~ BONNIE PINK / 17:00 ~ スネオヘアー  
24日 14:00 ~ 平川地一丁目 / 17:00 ~ サンプラザ中野 25日 12:00 ~ 怒髪天 / 15:00 ~ 斉藤和義